4

東京都目黒区
学校法人八雲学園
八雲学園中学校高等学校

私立高校

本物志向のトイレで感性を育て、トイレ清掃で自ら考える力を育てる。

古いトイレなのに異臭がしない！

昔の学校のトイレといえば臭い、汚いが代名詞で、これまで、そんなトイレを数多く目にしてきた。しかし、どんなものにも例外というものはあるようだ。

70年余りの歴史を持つ八雲（やくも）学園中学校高等学校が校舎の耐震工事を機に大胆なトイレ改装も行ったと聞き、うかがってみることにした。

しかし、最初に案内されたのは築20年を超えるトイレ。設置当時の和式便器も健在だ。校内に唯一残る、古いトイレだが、このトイレは八雲学園中学校高等学校のトイレに対する姿勢を教えてくれる。

実はこのトイレ、古いトイレならではの異臭がほとんどしないのだ。湿式トイレなのに床もじめじめした感じがなく清潔だ。壁面タイルの目地は白さを保ち、さすがに床タイルの目地は黄ばみも出ているが、20年以上前のものとは思えない。洗面台、掃除道具入れも整然としている。

しかも、さらに驚いたことにこのトイレを清掃しているのは生徒だという事実。

トイレを見れば本当の学校の姿がわかる

最近、高校では公立高校でさえ、トイレ掃除は専門業者任せというところが増えているが、八雲学園中学校高等学校は伝統的に生徒がトイレ掃除を行ってきた。その理由を近藤彰郎（あきお）理事長・校長はこう説明する。

美しい校内、清潔なトイレは生徒たちの自主的な努力の賜物

1. 耐震補強工事が終わった校舎。正面の東校舎は斜張橋の原理を応用した「パラレル構法」を採用。建物内部のスペースを損なわず、室内からの眺望も確保される。
2. 校内の清掃を管理し、トイレの点検や消耗品の補充も行う美化委員の生徒たち。中学校、高校の各クラスから2名ずつ選ばれる。新しいトイレの天井にはBGM用スピーカーがあり、音楽が静かに流れる。

取材時に唯一、残されていた旧トイレ。2011年1月には改修された。

【八雲学園中学校高等学校】
●竣工年月／2009年9月（第一期）
2010年10月（第二期）
●所在地／東京都目黒区八雲2-14-1
●生徒数／986名
●施主／学校法人 八雲学園
●設計監理／鹿島建設 株式会社
●施工／鹿島建設 株式会社
株式会社 西原衛生工業所
●敷地面積／5,490㎡
●延床面積／5,486㎡
●構造規模／RC造一部S造、木造 地上4階

2010年の二期工事で完成したメディアセンター棟2階に作られた図書室。都内の学校には珍しい木造混構造を採用し、採光にも配慮したことで、落ち着いた温かみのある空間に。

「子どもたちにマナーを教える場所として、トイレはとても重要な場所なんです。トイレは毎日使う場所ですが、女性は使っているところを誰にも見られません。人目があるところできちんと振る舞うのは当たり前ですが、誰の目もないところで後に使う人のことを考えて大切に使う。放課後にみんなでトイレ掃除をする中で、そういうことを自分で感じて、学びとっていってほしいんです」

生徒たちも中学校入学当初は「えっ、私たちがトイレ掃除をするの!?」ととまどいを隠せないらしいが、掃除の様子を見ると、みんな手を休めることなくトイレ磨きに熱中している。美化ご担当の先生も「掃除した結果がしっかりあらわれる場所だからでしょうか、教室の掃除より熱心なぐらいですね」と、太鼓判を押す。

近藤彰郎理事長・校長

確かにこの集中力で20年間磨かれれば、いかに古いトイレでも清潔に保たれるはずである。

耐震工事を機に大胆なトイレ改修

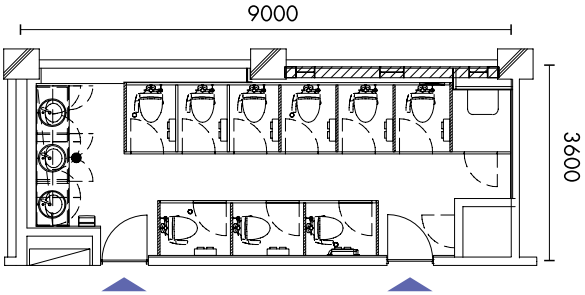
しかし、いかに清潔に保ってきたトイレでも時代の流れには逆らえない。2年間かけて行った耐震補強工事にともない誕生した新しいトイレは、学校のトイレとしては破格のクオリティ。特にブースの重厚感はとても学

重厚な意匠に負けない洗面カウンター。ホテルの洗面台のような大きさの鏡も生徒たちに好評。

都内老舗ホテルをモチーフにした重厚感のあるブース。ブース間の仕切りは天井まで立ち上げ、プライバシーを保護。

1. 水滴ひとつ残さず磨き上げる。飾られた花が女子校らしい。
2. 洗面台には生徒が後始末をするためのタオルが置かれている。
3. 床はモップで磨く、乾式清掃を採用。

● 2階 生徒用トイレ



学校のトイレから学べることはまだまだたくさんある。

ハイクオリティのトイレ空間を最新の設備が支える

1. 家庭や商業施設で使われるフタ付きの洋式便器を採用。今回の改修では和式便器は残さず、すべての便器は洋式に変更された。
2. 自動水栓を採用し、東京都水道局が推進する直結給水に変更。衛生面でも安心。
3. すべてのブースにウォシュレットと擬音装置（音姫）を備えている。
4. 衛生的なハンドドライヤー。ハンカチを濡らしたくない生徒たちに好評。

校のものとは思えない。

「学校のトイレには合理性一辺倒なものが多いけれど、それでは、豊かな感性は育ちません。合理的であればそれでいい、という考え方に立った施設で育つと生徒たちはすべて合理的に考えるようになってしまう。そうなると『心の教育』はそこで終わりです。生徒たちは1日7～9時間、学校にいるわけですから、そこの環境に影響されやすい。ですから私はトイレも含めて学校の環境はできる限り、本物志向で整えるべきだと思っているんです」

近藤理事長・校長のそんな思いを反映して生まれたトイレのモチーフは、なんと都内一流ホテルのトイレ！　漂うオーラにも納得できる。そしてこの空間を支える設備は「全洋式便器」「ウォシュレット」「擬音装置」「自動水栓」「ハンドドライヤー」「人感センサー式照明」「音楽の流れるBGMスピーカー」……など。節水、節電、そして衛生面など、学校のトイレで考えられるほとんどの配慮がなされている。また、和式便器を残すかどうかも議論になったが、ほとんど和式便器のブースを使用する生徒がいなかったため、すべての便器は洋式に変更された。

古くなったトイレを生徒全員で大切に使い、きれいに磨き上げる一方、最高のホスピタリティと設備を持った一流ホテル並みのトイレを持つ。

「子どもはまだ、世界が狭いわけですから、どうしても考え方や見方が固定してしまう。広い世界にはいろんな価値観がありますから、トイレひとつからも幅広い考え方を学んでほしいんです。私はそういうことも教育の役割だと思ってます」

生徒たちは今日もトイレを磨き続ける。卒業する頃には近藤理事長・校長の願いをきっと理解するに違いない。

メディアセンターに新しく作られた多機能トイレ。多機能トイレはスペースに入る器材が多く、煩雑になりがちなので、パッケージタイプのものを採用。高さやデザインが統一され、トイレ空間が美しく仕上がった。